

公益財団法人仁科記念財団
第 38 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 4 年 3 月 18 日（金曜日） 17 時 30 分～18 時 00 分

2. 形 式 WEB 会議（Zoom による）

3. 出 席 総数 11 名（理事現在数 11 名）

出席理事：

安藤恒也	家 泰弘	伊藤公孝	上養義朋	梶田隆章
小林 誠	佐々木 節	十倉好紀	永宮正治	藤川和男
矢野安重				

以上 11 名

出席監事：

荒船次郎 鈴木増雄

以上 2 名

4. 議事の経過と結果

第 38 回理事会を WEB 会議として開始するにあつて、出席（参加）理事、監事、全員の音声および映像が共有されていることを確認した。

定刻、小林理事長が議長となり、出席理事数が定款第 37 条 3 項に定める定足数 6 名に達していることを確認の上、理事会開会を宣言した。

(1) 業務執行状況報告

議案審議に先立って、定款第 28 条第 4 項に則り、小林誠理事長、家泰弘常務理事、藤川和男常務理事、矢野安重常務理事より、令和 3 年度下半期に行った、それぞれ、財団運営の総理、仁科記念講演会の開催、仁科記念賞および仁科アジア賞の運営、財団運営の総務についての業務執行状況が個別に報告された。

(2) 議案審議

第 1 号議案：令和 4 年度（2022 年度）事業計画書および収支予算書案の承認の件

小林誠理事長より令和 4 年度（2022 年度）事業計画書および収支予算書案の説明があり、審議の結果、全出席理事異議なく原案通り承認された。

第 2 号議案：特定資産を 815 万円取り崩す件

小林誠理事長より 2022 年度事業計画を遂行するにあたり、特定資産を 815 万円取り崩したい旨提案があり、全出席理事異議なく承認された。

第3号議案：次期仁科記念賞選考委員の選任の件

小林誠理事長より、次期仁科記念賞選考委員（任期：2022年4月1日から2024年3月末日まで）として、安藤恒也委員長ほか9名を重任とし、新たに5名を選任したい旨提案があり、審議の結果、全出席理事異議なく原案通り承認された。

第4号議案：資金調達および設備投資について

小林誠理事長より「2022年度に借り入れおよび設備投資の予定はない」旨報告があり、全出席理事が了承した。

以上で議事を終了し、本理事会の議事録署名人は定款第40条に則り理事長のほか荒船次郎、鈴木増雄両監事とすることとした後、議長、本理事会の終了を宣し閉会した。

以上の議事録が正確なものであることを証するため、議事録署名人、下記に署名捺印する。

令和4年3月18日

公益財団法人仁科記念財団 第38回 理事会

理 事 長

小 林 誠

署 名 人

荒 船 次 郎

署 名 人

鈴 木 増 雄

公益財団法人 仁科記念財団

令和 4 年度（2022 年度）事業計画書（案）

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、故仁科芳雄博士が開拓した原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成です。

令和 4 年度（2022 年度）は、以下の公益目的事業を行います。

（1）仁科記念賞、仁科アジア賞の授与

仁科記念賞は、財団が創立した 1955 年に第 1 回が授与されて以来の長い伝統をもち、原子物理学の分野では最も評価の高い賞としてよく知られています。2022 年度（第 68 回）も例年通り、2022 年 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、応用物理学会誌、日本化学会誌等に仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募します。選考は仁科記念賞規程に則り選考委員会で行い、受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 60 万円の副賞を授けます。授賞件数は、3 件以内とし、選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に発表するとともに、授賞理由を当財団ホームページとアジア太平洋物理学会連合（Association of Asia Pacific Physical Societies: AAPPS）の Bulletin 上に公表します。本年度の授賞式は、仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日（火）に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で執り行います。

仁科記念財団は、将来性豊かなアジアの若手研究者を鼓舞激励するため、2012 年度に仁科アジア賞（Nishina Asia Award）を創設しました。仁科アジア賞は、アジアに研究基盤をおいて極めて優れた成果を挙げた日本以外のアジアの若手研究者（学位取得後 15 年以内）を毎年 1 名選考して、賞状と賞牌および賞金 40 万円を仁科記念賞授賞式の場で授与するというものです。2022 年（第 10 回）も例年通り、2022 年 1 月 1 日から 3 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページに候補者募集要項を公表するとともに、広く世界の学識者からの推薦を公募しています。選考は Nishina Asia Award 規程に則り当該選考委員会で行い、選考結果は理事長の承認を得て本年 9 月初旬には受賞者に通知します。また、すみやかに当財団ホームページと AAPPS の Bulletin 上に選考結果を公表します。

（2）仁科記念講演会の開催

仁科記念講演会は、社会に原子物理学およびその応用の真髓を知っていただくため、1955 年以来毎年、一般の参加を得て開催されてきています。本年度は、第 68 回の定例

講演会を開催します。

(3) 歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営

「仁科記念室」に保存されていた資料・物品の理化学研究所への移管が昨年度完了したことを踏まえ、それらの史料の整理を理研史料室と共同で行うとともに当財団のホームページの「仁科芳雄デジタル記念館」での公開を進めます。

(4) 知識および思想を普及啓発するための出版物刊行

本年度も、仁科記念財団案内、仁科記念講演会の講演録や講演録画とともに、当財団がこれまで冊子体として刊行してきたものを全て電子化してホームページの「出版および史料研究調査」に順次公開します。

(5) 優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成

本年度も、仁科アジア賞受賞者を、授賞式の前後約 1 週間、わが国研究者との研究交流のため招聘します。なお本年度は、コロナ禍のために招聘できなかった、2020 年度と 2021 年度の受賞者 2 名も招聘します。

令和4年度(2022年度)収支予算書
2022年4月1日から2023年3月31日まで

公益財団法人仁科記念財団
(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	(5,000,000)	(5,000,000)	(0)	
基本財産受取利息	5,000,000	5,000,000	0	
② 特定資産運用益	(170,000)	(150,000)	(20,000)	
特定資産受取利息	170,000	150,000	20,000	
③ 受取会費	(1,610,000)	(1,610,000)	(0)	
賛助会費受取会費	1,610,000	1,610,000	0	
④ 受取寄付金	(1,100,000)	(1,100,000)	(0)	
受取寄付金	1,100,000	1,100,000	0	
⑤ 雑収益	(0)	(0)	(0)	
雑収益	0	0	0	
経常収益 計	7,880,000	7,860,000	20,000	
(2) 経常費用				
① 事業費				
仁科記念賞顕彰費	3,480,000	2,700,000	780,000	
仁科記念講演会費	199,800	300,000	△ 100,200	
仁科記念奨励金	1,455,200	1,000,000	455,200	
研究関連出版物刊行費	100,000	200,000	△ 100,000	
諸謝金	620,000	640,000	△ 20,000	
役員報酬	600,000	1,200,000	△ 600,000	
給料手当	2,930,000	2,930,000	0	
旅費交通費	1,120,000	1,120,000	0	
会議費	210,000	220,000	△ 10,000	
通信運搬費	100,000	200,000	△ 100,000	
消耗品費	200,000	200,000	0	
賃借料	480,000	480,000	0	
物件使用料	350,000	350,000	0	
支払手数料	30,000	60,000	△ 30,000	
雑費	0	0	0	
事業費合計	11,875,000	11,600,000	275,000	74.08 %
② 管理費				
諸謝金	330,000	330,000	0	
役員報酬	600,000	1,200,000	△ 600,000	
給料手当	1,840,000	1,840,000	0	
福利厚生費	20,000	20,000	0	
旅費交通費	340,000	350,000	△ 10,000	
会議費	55,000	10,000	45,000	
印刷製本費	140,000	330,000	△ 190,000	
通信運搬費	100,000	100,000	0	
消耗品費	150,000	150,000	0	
賃借料	120,000	120,000	0	
物件使用料	350,000	350,000	0	
支払手数料	10,000	30,000	△ 20,000	
雑費	100,000	250,000	△ 150,000	
管理費合計	4,155,000	5,080,000	△ 925,000	25.92 %
経常費用 計	16,030,000	16,680,000	△ 650,000	
当期経常増減額	△ 8,150,000	△ 8,820,000	670,000	

2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益		0		
経常外収益 計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用 計	0		0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 8,150,000	△ 8,820,000	670,000	
一般正味財産期首残高	65,000,000	122,000,000	△ 57,000,000	
一般正味財産期末残高	56,850,000	113,180,000	△ 56,330,000	
II 指定正味財産増減の部		0		
基本財産運用益	5,100,000	5,000,000	100,000	
一般正味財産への振替額	△ 5,100,000	△ 5,000,000	△ 100,000	
当期指定正味財産増減額	0		0	
指定正味財産期首残高	636,324,975	586,324,975	50,000,000	
指定正味財産期末残高	636,324,975	586,324,975	50,000,000	
III 正味財産期末残高	693,174,975	699,504,975	△ 6,330,000	

見積もり条件

- 1) 授賞式会場: 学士会館(立食80名) 過去受賞者6名招待
- 2) 仁科記念賞賞牌: 2名分(在庫) 4名分発注
- 3) 仁科アジア賞: 過去の2名招聘
- 4) 評議員会: 対面
- 5) 理事会: 対面(3回)
- 6) 運営会議: 3回(対面) 6回(オンライン)
- 7) 仁科記念賞選考委員会: 1回(オンライン) 1回(対面)
- 8) 仁科アジア賞選考委員会: 1回(オンライン) 1回(対面)
- 9) 財団案内: pdf印刷
- 10) 記念講演会: ハイブリッド(講師2名)

令和3年度(2021年度) 収支予算書(損益計算ベース)内訳書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

公益財団法人仁科記念財団

(単位:円)

科 目	公益目的事業	法人会計	合 計	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	(3,500,000)	(1,500,000)	(5,000,000)	
基本財産受取利息	3,500,000	1,500,000	5,000,000	
② 特定資産運用益		(170,000)	(170,000)	
特定資産受取利息		170,000	170,000	
③ 受取会費	(805,000)	(805,000)	(1,610,000)	
賛助会費受取会費	805,000	805,000	1,610,000	
④ 受取寄付金	(1,050,000)	(50,000)	(1,100,000)	
受取寄付金	1,050,000	50,000	1,100,000	
⑤ 雑収益	(0)	(0)	(0)	
雑収益	0	0	0	
経常収益 計	5,355,000	2,525,000	7,880,000	
(2) 経常費用				
① 事業費				
仁科記念賞顕彰費	3,480,000		3,480,000	
仁科記念講演会費	199,800		199,800	
仁科記念奨励金	1,455,200		1,455,200	
研究関連出版物刊行費	100,000		100,000	
諸謝金	620,000		620,000	
役員報酬	600,000		600,000	
給料手当	2,930,000		2,930,000	
旅費交通費	1,120,000		1,120,000	
会議費	210,000		210,000	
通信運搬費	100,000		100,000	
消耗品費	200,000		200,000	
賃借料	480,000		480,000	
物件使用料	350,000		350,000	
支払手数料	30,000		30,000	
雑費	0		0	
事業費合計	11,875,000		11,875,000	74.08
② 管理費				
諸謝金		330,000	330,000	
役員報酬		600,000	600,000	
給料手当		1,840,000	1,840,000	
福利厚生費		20,000	20,000	
旅費交通費		340,000	340,000	
会議費		55,000	55,000	
印刷製本費		140,000	140,000	
通信運搬費		100,000	100,000	
消耗品費		150,000	150,000	
賃借料		120,000	120,000	
物件使用料		350,000	350,000	
支払手数料		10,000	10,000	
雑費		100,000	100,000	
経常費用 計	11,875,000	4,155,000	16,030,000	25.92
当期経常増減額	△ 6,520,000	△ 1,630,000	△ 8,150,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益 計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用 計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	△ 8,150,000	
一般正味財産期首残高	0	0	65,000,000	
一般正味財産期末残高	0	0	56,850,000	
II 指定正味財産増減の部				
基本財産運用益	3,500,000	1,500,000	5,000,000	
一般正味財産への振替額	△ 3,500,000	△ 1,500,000	△ 5,000,000	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	636,324,975	
指定正味財産期末残高	0	0	636,324,975	
III 正味財産期末残高	0	0	693,174,975	

公益財団法人 仁科記念財団
第 9 回 運営会議・運営諮問委員会 議事次第

日 時：2022 年 3 月 18 日（金）18:00~19:30

形 式：WEB 会議（by Zoom）

議長：理事長

1. 開会

2. 報告事項

- ① 3月1日、2022NAA候補推薦依頼のリマインダーを配信した。
- ② 3 月 18 日 17:30 から第 38 回理事会が開催され、①令和 4 年度（2022 年度）事業計画書および収支予算書 ②特定資産の 815 万円の取り崩し ③次期仁科記念賞選考委員（2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の選任 が承認され、④資金調達および設備投資の予定はないことが了承された。
3 月末日までに、議事録、事業計画書、収支予算書を内閣府に電子申請するとともに、HP に公示する。また、新仁科記念賞選考委員から重任、就任承諾書をいただく。

3. 運営諮問委員会への諮問事項

- ① 2022 年度定例仁科記念講演会について
- ② 今後の予定について

〔運営諮問委員会〕

議長：早野委員長

議題 1. 前回議事録（案）の確認（資料）

議題 2. ①について

議題 3. ②について

4. その他（次回日程：第 1 回運営会議） 5. 閉会

公益財団法人 仁科記念財団
第 8 回 運営諮問委員会 議事録（案）

日 時：2022 年 2 月 21 日（金）17:30~19:30

形 式：WEB 会議（by Zoom）

出 席

運営諮問委員（委員現在数 6 名）出席者 5 名：

早野龍五、磯暁、櫻井博儀、須藤靖、永長直人

理事：

小林誠、家泰弘、藤川和男、矢野安重、安藤恒也、伊藤公孝、

上蓑義朋、佐々木節、十倉好紀、永宮正治

監事：

荒船次郎、鈴木増雄

オブザーバー：

西村純、山田作衛、

事務局：

松林孝昭

1. 〔理事長・事務局等報告〕

- ① AAPPS Bulletin（新装版）に 2021NAA と 2021 仁科記念賞のニュース記事が掲載されたので、仁科記念財団の HP からリンクを張りつた。受賞者には報告済み。
- ② 新仁科記念賞選考委員（2022 年 4 月～2024 年 3 月）：1）「家委員」→山本智 東大大学院理学系研究科物理学専攻・教授 2）「大栗委員」→高柳匡 京都大学基礎物理学研究所素粒子論グループ・教授 3）「川上委員」→古崎昭、理研古崎物性理論研究室・主任研究員 4）「中畑委員」→井上邦雄 東北大学ニュートリノ科学研究センター・教授 5）「細谷委員」→横山順一 東大大学院理学系研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センター・教授 から就任の承諾をいただいた。（理事長）第 38 回理事会での承認を得て、就任承諾書をいただく。
重任：安藤委員長ほか、相田委員、小林委員、高橋委員、瀧川委員、中村委員、初田委員、日笠委員、三明委員、山内委員（9 名）

2. 〔運営諮問委員会への諮問事項〕

- ① 来年度予算編成と来年度以降の事業計画の見直しについて

3. 〔運営諮問委員会〕

議長：早野委員長

議題 1. 前回議事録（案）が確認された。

議題 2. ①について：継続審議とした。

4. その他 5. 閉会

次回の 2021 年度第 9 回運営会議・運営諮問委員会は 2022 年 3 月 18 日（金）第 38 回理事会に引き続いて 18:00～ 19:30 に WEB で開催することとした。

皆さま

今年の仁科記念講演会のテーマ&講師候補について、これまでに下記のご提案・ご意見をいただいています。

金曜日の運営協議会でのご議論、よろしくお願いします。

家 泰弘

<矢野先生から>

テーマは「放射線と放射性同位元素の生物学利用（案）」で

講師は、1）中西友子氏 2）阿部知子氏 です。

資料を添付しました。（⇒添付資料）

お二人の研究は両方とも、仁科先生の研究に端を発しています。

ヘベシー（1943年、放射性同位体のトレーサー利用でノーベル化学賞受賞）

は仁科先生のコペンハーゲン時代の恩師で1931年に仁科先生が理研に招聘しました。

<永宮先生から>

あまり強い意見ではありませんが、ずっと過去の歴史をみますと、やはり今回は物性が適切ではないでしょうか？

昨年は、量子スピンとソフトマターの候補者が出ていました。もちろんそれ以外の方でもいいとは思いますが、これらの候補者からスタートするのも一案かと思います。

2022年度仁科記念講演会のテーマおよび講師候補提案のお願い（3月の理事会にて議論いたします）

仁科記念財団 理事&運営会議委員各位

今年の仁科記念講演会のテーマおよび講師候補の検討を始める時期になりました。

3月18日の理事会・運営会議にて審議したいと思いますので、アイデアをお持ちの方は、できれば3月14日(月)までに私宛てにお寄せいただければ幸いです。

ちなみに近年の講演会は以下のとおりです。

2021年 ニュートリノ物理学と宇宙： 梶田隆章、市川温子、石原安野

2020年 物理学とコンピューティング： 橋本幸士、西森秀稔

2019年 量子重力 高柳匡、大栗博司

2018年 アイソトープで探る宇宙 三宅美沙、望月優子

2017年 トポロジカル物質 川上則男、十倉好紀

2016年 ニホニウム 茂山俊和、羽場宏光、山崎敏光

2015年 一般相対論 100年 前田恵一、三尾典克

家 泰弘

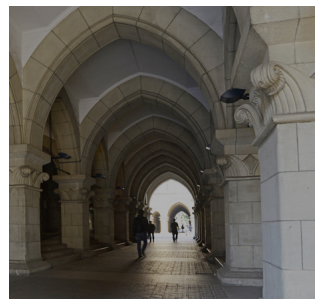
ARTICLES



フリーワードを入力

検索

農学生命科学研究科の中西友子特任教授がHevesy賞を受賞



いいね！ ツイー

農学生命科学研究科・農学部

掲載日：2016年5月16日

実施日：2016年04月10日

農学生命科学研究科付属食の安全研究センター 中西友子 特任教授（元放射性同位元素施設教授）がHevesy賞を受賞しました。

Hevesy賞は1943年ノーベル化学賞を受賞したGeorge de Hevesyを記念して、放射科学や核科学の分野で秀でた業績をあげた研究者に与えられます。今回の授賞式は、2016年4月10日にハンガリーバダレストにおいて開催された国際会議International Conference on Radioanalytical and Nuclear Chemistryの中で行われました。

中西特任教授が培ってきた放射線や放射性同位元素を駆使したイメージング開発により、生きた植物における水と元素の動態の解析に成功したこと、ならびに、福島事故の調査研究が高く評価されたものであり、中西特任教授の受賞は日本人としては2人目になります。

関連URL：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/news/2016/20160510-1.html>



中西特任教授とノーベル賞受賞者G.Hevesy氏ご子息



受賞メダル



賞状

[交通アクセス](#)[お問い合わせ](#)[English Site](#)[報道関係者の方](#)[理研在籍者・OBの方](#)[理研寄附金](#)[RIKENメルマガ](#)**理化学研究所**

検索 🔍

理研について	研究室紹介	研究成果 (プレスリリース)	広報活動	産学連携	採用情報
--------	-------	-------------------	------	------	------

[Home](#) > [広報活動](#) > [お知らせ](#) > [お知らせ 2021](#)

いいね! 87

ツイート

2021年10月4日

[前の記事](#)[一覧へ戻る](#)[次の記事](#)

理化学研究所

阿部知子副センター長がWomen in Plant Mutation Breeding Awardを受賞

阿部知子副センター長（[仁科加速器科学研究センター イオン育種研究開発室](#)長）が、Women in Plant Mutation Breeding Awardを受賞しました。

本賞は、国際連合食糧農業機関（FAO）および国際原子力機関（IAEA）より、原子力技術を用いた植物育種による持続可能な食物の安定確保に貢献した女性研究者に授与されるものです。阿部副センター長は、イオンビームを用いた突然変異育種技術に関する功績が評価され、受賞に至りました。授賞式は9月20日に執り行われ、オンラインで出席しました。



受賞者のコメント

名誉ある賞を頂戴して光栄です。研究を一緒に行ってきたラボメンバー、物理学者そして品種改良ユーザー会の皆様に深謝致します。一口にイオンビームと言っても、元素の数だけ種類があります。今後とも技術開発研究に精進してまいります。



理研について	研究室紹介	研究成果 (プレスリリース)	広報活動	産学連携	採用情報
--------	-------	-------------------	------	------	------

[Home](#) > [広報活動](#) > [お知らせ](#) > [お知らせ 2021](#)

いいね！ 0

ツイート

2021年11月10日

[前の記事](#)[一覧へ戻る](#)[次の記事](#)

理化学研究所
公益社団法人日本アイソトープ協会

理研仁科加速器科学研究センター、公益社団法人日本アイソトープ協会 連携に関する協定を締結

理化学研究所（理研）仁科加速器科学研究センターと公益社団法人日本アイソトープ協会は11月9日、アイソトープ・放射線に関する利用技術の向上を図り、それらを通じて学術および科学技術の発展に寄与することを目的とする協定を締結しました。

現在、国内外で[放射性医薬品](#)^[1]を用いる核医学治療が注目されており、そこで使用される[ラジオアイソトープ（RI、放射性同位元素）](#)^[2]の需要が高まっています。仁科加速器科学研究センターのRI製造技術および応用への知見と、日本アイソトープ協会が有するRIの供給から廃棄物の集荷・処理に関する高度なノウハウの融合は、今後RIを安定的に供給する国内ネットワーク構築の第一歩となります。さらにRI・放射線の利用技術を普及させることで、科学技術の一層の発展や社会へ寄与します。



協定締結の様子

(理研仁科加速器科学研究センター 櫻井博儀センター長 (右)、公益社団法人日本アイソトープ協会 畑澤順専務理事)

背景

現在、ラジオアイソトープ (RI、放射性同位元素) は、基礎研究だけでなく医療、農業、工業といったさまざまな分野で幅広く利用されています。中でもアスタチン (^{211}At) やアクチニウム (^{225}Ac) といった短寿命RIは、核医学治療での利用に期待されており、国内外での需要が高まっています。日本では、RIの多くを輸入に頼っていますが、これらのRIは半減期が短いため、安定的な輸入が困難です。また、RI製造および供給に関する知識や技術に卓越した人が必要なため、人材育成も喫緊の課題となっています。

仁科加速器科学研究センターは、1931年に創立された仁科芳雄博士研究室に由来し、世界最先端の重イオンビーム加速器施設「RI ビームファクトリー (RIBF)」を擁しています。RIBFでは、多種類のRIビームを生成することが可能で、これまでに二ホニウムの発見^{注1)}や核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化の提案、重イオンビーム照射による植物の品種改良などに代表される研究成果とともに、RIを製造し所内外に提供してきました。RIの医学的応用についても研究を進めており、 ^{211}At の製造技術を開発し、その大量製造が可能になりました。また、国内最大規模拠点としてRI製造するだけでなく、国立がん研究センターとの共同研究により創薬を開始したほか、2019年には理研開拓研究本部とともにα線がん治療の実用化につながる ^{211}At の標識法を開発しました^{注2)}。

一方、日本アイソトープ協会は、仁科博士により輸入されたRIを全国の研究者に配分したことを契機に、RIの安全な取り扱い、取り扱い技術の向上および普及を目的として、1951年に設立されました。現在、RIの供給から廃棄物の集荷・処理までの一貫した取扱いおよびRI・放射線に関する調査研究を一体的に推進する事業を展開しており、RI・放射線利用者とのネットワークを持っています。

両者の強みを生かして相互に連携することで、国内でのアイソトープ・放射線の利用・利用技術を向上させるため、このたび協定の締結に至りました。

注1) [理研113番元素特設ページ](#) 

注2) 2019年1月18日プレスリリース「[アスタチン-211の実用的な標識法の開発](#)」

連携内容

- (1) 新たなアイソトープ・放射線の活用法の開拓に資する共同研究の推進
- (2) アイソトープ・放射線の適切な利活用に資する人材育成の推進
- (3) アイソトープ・放射線に関するシンポジウム、ニース・シーズの意見交換会等の共同企画・開催

今後の展望

本協定に基づき、仁科加速器科学研究センターのRIに関する高度な開発・応用技術と、日本アイソトープ協会の培ってきたノウハウを融合します。仁科加速器科学研究センターはこれまで以上に多種多様な新しいRIの利用技術の開発に取り組み、日本アイソトープ協会を通じて、必要としている利用者にRIを届けることで、RIの国内での普及に一層貢献し、学術および科学技術の発展に寄与します。

また、国内での放射性医薬品を用いた核医学治療が広がりを見せる中で、両者は国内でのRI製造・供給の基盤を整え、RIを幅広く普及していくことで、医療をはじめとする社会全体への貢献を目指します。

補足説明

1. 放射性医薬品

ラジオアイソトープ（RI、放射性同位元素）を含む医薬品。RIが放出する放射線を利用しており、がんなどの病気の診断薬、治療薬として活用されている。

2. ラジオアイソトープ（RI、放射性同位元素）

物質を構成する原子核には、構造が不安定なため時間とともに放射線を出しながら原子核が崩壊していくものがある。このような原子核を放射性同位元素（RI）と呼ぶ。同じ元素であっても中性子の数が異なるものを同位体と呼ぶが、同位体は安定なものと不安定なものに分類される。

WEB会議セットのご案内



※追加オプションを含めたイメージです

バンケットルームの上質な空間で、高画質のWeb会議(テレビ会議)をお手軽に開催いただけるオプション機材をご用意いたしました

ホテルならではの
より充実した会合を

Zoom Google Meet Microsoft Teams

ほか、USBカメラ・ビデオをサポートするビデオ会議アプリケーションに対応

【セット内容】

- 会議システム
(リモコン付きカメラ/スピーカー/集音マイク/ハブ)
- ノートパソコン
(15.6型/Windows10/Zoom・Teamsアプリケーション導入済)
- インターネット回線 (最大1Gbps ※ベストエフォート)

【セット使用料】 税込価格: 66,000円

オプション増設用集音マイク
1台 5,500円

最大2台まで増設可能です
(標準装備と合わせて4台まで)



機材のセッティングまで当館で承ります!!

専門的な知識が無くても安心してweb会議を実施する事が可能です。

※ご利用にあたり、ハード・ソフトウェアに関するサポートや、オペレーター等のスタッフ対応はございません。

アルカディア市ヶ谷

私学会館

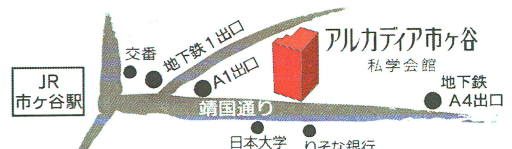
<https://www.arcadia-jp.org>

TEL 03-3261-0021 (11月)

会議・宴会予約係
直通ダイヤル 03-6685-0540

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

11月 地下鉄 (有楽町線 新大塚駅 徒歩1分) 市ヶ谷駅 徒歩2分



ホテルの充実した設備とホスピタリティ、ワンランク上の Web 会議を。

上質のモジュール式システムで、より会議に集中できるハイスペックな機材。
身軽に、そして気軽にオンラインミーティングを開催いただけます。

操作は簡単

高度な専門知識は
不要です

会場参加

推奨人数 **20 名様**前後

※30名様以上のご利用は
ご相談ください

Zoom ミーティング
(Zoom pro プランの場合)

100 名様まで
参加可能

お持ち込みの PC も
対応可能

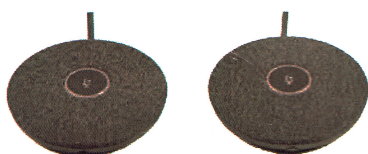
(Windows/Mac/Chrome OS)
※USB Type-A/HDMI の
コネクタが必要です

カメラ



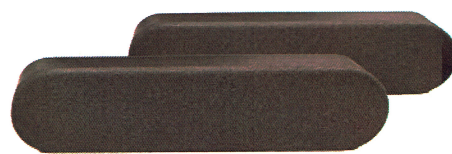
明るく鮮明な映像、
15 倍 HD ズーム、
最大 4 K の解像度
で優れた精度を実
現。リモコン操作
でコントロールが
簡単にできます。

マイク



極めて感度の高い高性能マ
イクです。参加者全員の声
がクリアに伝わります。最大 4
台まで対応。

スピーカー



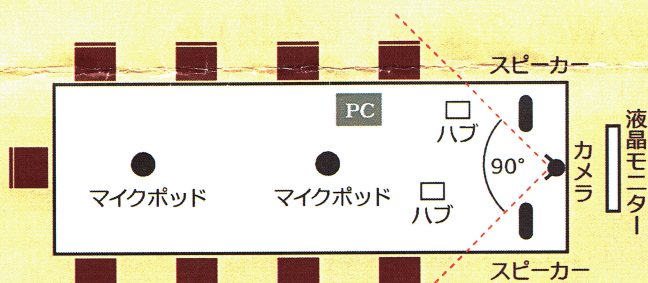
自然かつ臨場感のある、聴き
取りやすいサウンドで会議参
加者全員の声がクリアに伝わ
ります。

当機材はセット台数に限りがございます。ご利用の際は、**事前に予約**が必要となります

Web 会議セット設置イメージ一例

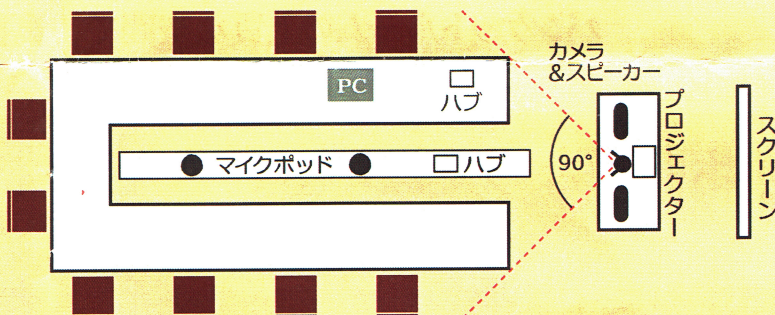
会場レイアウト 例①

(「Web 会議セット」+液晶モニター (オプション))



会場レイアウト 例②

(「Web 会議セット」+プロジェクター・スクリーン (オプション))



※ハウリング防止のため、「Web 会議セット」に接続する PC 以外の会場内 PC は全て「マイク・スピーカー」共にミュート設定をお願いいたします

各種

オプション料金



TVモニター

22,000円～



液晶プロジェクター

22,000円



スクリーン

4,290円～

～ ご利用案内 ～



- Web 会議セットに含まれるカメラやマイク等の単体でのレンタルは承っておりません。また、パソコン・ビデオ会議アプリケーション等の持込みは可能ですが、この場合利用しなかった一部機材分の割引等は承れません。
- Zoom 以外のビデオ会議アプリケーション (Google Meet/Microsoft Teams 等) をご利用の場合、お客様ご自身でアカウントのご用意をお願いいたします。
- ビデオ会議アプリケーションによる会議録画を希望される場合には、USB メモリー等の記録メディアをご用意ください。
※レンタル PC 本体への録画はセキュリティ上お断りしております。
- 概ね 110 m 以上の会場でご利用いただく場合で、会場の音響設備の利用も必要な場合は、一部セット機材がご利用いただけません場合があります。詳しくはスタッフまでご相談ください。
- 基本的なセキュリティ対策 (ファイアーウォールやウイルス対策ソフトなど) は行っておりますが、ご利用に際して、ウイルスやマルウェア等への感染、データ消失やその他の被害に遭われても当館では一切の責任を負いかねます。
- Web 会議セットは、全てのお客様のビデオ会議利用を保証するものではありません。偶発的な機材の不具合や、お持ち込み機材の設定・ソフトウェアによっては、ご利用いただけない場合があります。事をご了承ください。また、ご利用にならなかった事に起因するいかなる損害賠償もご利用料金を超える部分については、当館では保証いたしません。
- ご利用料金には、別途サービス料 10% を加算させていただきます。



[ホーム \(/\)](#) > [製品情報 \(/products\)](#) > [音声コミュニケーション機器 \(/products/uc\)](#) > YVC-1000

ユニファイドコミュニケーション マイクスピーカーシステム

YVC-1000

希望小売価格：120,000円(税抜)

JANコード：4957812559911

2014年5月発売

8～40人規模の中大会議に最適

ハンドマイクを接続することで、遠隔セミナーでの使用も可能。

[無料貸出／体験デモ](#) > [\(/experience/uc_rental\)](#)

- 独自の高音質技術で快適な遠隔コミュニケーション
- フレキシブルな接続性・優れた拡張性で幅広い用途に対応
- かんたんに使える親切設計、便利機能で使い方がひろがる
- 本体（スピーカー兼コントロールユニット）1台にマイク1台を付属の標準構成
- オプションの拡張マイクを4台（合計5台）まで増設可能



ご相談・お問い合わせ
[\(/contact\)](#)

8～40名程度



(//sound-solution.yamaha.com/var/site/storage/images/_aliases/size_large/9/6/6/0/20669-32-jpn-JP/yvc-1000_case.jpg)



※製品の色は実際の色と若干異なる場合があります。

ご相談・お問い合わせ
(/cont

[特長 \(/products/uc/yvc-1000/index#tab\)](#)

[仕様 \(/products/uc/yvc-1000/spec#tab\)](#)

[動作確認済みリスト \(/products/uc/yvc-1000/webmeet#tab\)](#)

[導入事例 \(/products/uc/yvc-1000/case_study#tab\)](#)

[サポート \(/products/uc/yvc-1000/support#tab\)](#)

[収納ケース \(/products/uc/yvc-1000/case#tab\)](#)

[API \(/products/uc/yvc-1000/api#tab\)](#)

[ダウンロード \(/products/uc/yvc-1000/download#tab\)](#)

YVC-1000ご購入キャンペーン実施中！



ご注意：

2021年12月生産以降の拡張マイク(YVC-MIC1000EX)を使用する場合にはファームウェアのアップデートが必要です。

- > [Windows向けYVC-1000ファームウェア詳細情報はこちら](#) (/license_agreement?system_title=YVC-1000_Firmware_312.zip)
- > [macOS向けYVC-1000ファームウェア詳細情報はこちら](#) (/license_agreement?system_title=YVC-1000_Firmware_312.dmg)

映像と音声の一体感で、遠隔コミュニケーションがさらに自然に。

YVC-1000は、マイクとスピーカーを独立させた分離型を採用。低音から高音までクリアに再生できるスピーカーをディスプレイの前に置くことで、映像と音声の一体感が生まれます。

さらに、ストレスのない双方向会話をサポートする適応型エコーキャンセラーなどヤマハの音声処理技術を多数搭載。

自然で快適な遠隔コミュニケーションを実現します。

- よくあるお問い合わせ
- > [YVC-1000MSとYVC-1000の違いについて](#) (/support/uc/faq#yvc-1000_diff)



ご相談・お問い合わせ
(/cont

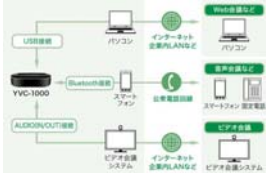
フレキシブルな接続性

PCやスマートフォン、タブレット、ビデオ会議システムなどと自在に接続できます。

PCベースのWeb会議ではUSB、スマートフォンやタブレットを使う場合はBluetooth*1、ビデオ会議とはオーディオ入出力端子*2でスムーズに接続。3つのインターフェースを搭載しているので、デバイスや会議システムの種類を問わずフレキシブルに対応します。

例えば、Web会議中にインターネット回線に障害が発生してWeb会議が継続できない緊急時でも、スマートフォン経由の音声会議に切り替えて会議を続行することも可能です。

- *1 広帯域のデータ伝送（mSBC）に対応しています。Bluetooth接続を利用する場合はBluetooth対応のスマートフォンまたはタブレット端末をご用意ください。
- *2 RCAピンプラグです。



(/sound-solution.yamaha.com/var/site/storage/images/_aliases/size_large,3-jpn-JP/42854_97_1.jpg)

NFC対応*3、スムーズにBluetooth接続できます。

NFC対応のスマートフォンやタブレットなら、Bluetoothボタンが点滅中
*4に本体上面のNFCロゴマークにかざすことで、かんたんに接続できます。

- ・*3 NFC対応機種によっては動作しない、または接続可能な距離が異なる場合があります。
- ・*4 Bluetoothボタンを一度押すと青色に点滅します。



Bluetoothおよび  Bluetooth はBluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。

優れた拡張性で幅広い用途に対応

オプションのマイクや外部スピーカーを接続すれば、さまざまな規模や使用方法に対応できます。

標準構成（マイク1台付属）*1に加え、オプションの拡張マイク「YVC-MIC1000EX」を4台（合計5台）まで増設可能*2。マイクを増設することで部屋のレイアウトや大きさ・参加人数に合わせた設置が可能になります。さらに外部スピーカー*3を接続することでより広範囲をカバーできるので、大規模会議や大きな会場での遠隔セミナーなどでも活躍します。

- ・*1 YVC-1000の標準構成は[本体×1、マイク×1]です。
- ・*2 拡張マイクの連結接続時、ミュートの誤操作による接続先への会話漏洩を防ぐため、接続されているすべてのマイクが連動してミュートします。
- ・*3 市販のアンプ内蔵スピーカーを2台まで接続できます。
動作確認済みの外部スピーカーは「[STAGEPAS 400BT](https://jp.yamaha.com/products/proaudio/pa_systems/stagepas_400bt_600bt/index.html) (https://jp.yamaha.com/products/proaudio/pa_systems/stagepas_400bt_600bt/index.html)」となります。



(//sound-solution.yamaha.com/var/site/storage/images/_aliases/size_large, 3-jpn-JP/42574_97_1.jpg)

かんたんに使える親切設計

音響調整は本体におまかせ。かんたん操作で、すぐに使えます。

YVC-1000は使用中に室内の音響環境を学習することにより音響設定を自動で最適化しますが、使用前に「音叉ボタン」を押すことで自動音響調整機能がはたらき、あらかじめ最適化*1しておくことができます。音響状態の問題を検知した場合には、「音叉ボタン」がオレンジ点灯して異常を通知。点灯中に「音叉ボタン」を押せば、音声ガイダンス*2により問題の内容を確認できます。また、音声ガイダンスは、自動音響調整機能の実行時以外にもBluetooth接続完了時の音声アナウンスなど、さまざまなシーンで操作をサポートします。

- ・*1 使用する空間の音響特性、マイクおよびスピーカーの設置位置を自動測定し、適応型エコーキャンセラーのフィルター係数を調整するなど内部パラメーターを最適化します（適応型エコーキャンセラーおよびオートルームEQの設定最適化/内蔵スピーカーと外部スピーカーの遅延差補正/外部スピーカーの周波数特性補正を行います）。
- ・*2 英語 / 日本語 / 中国語 / 韓国語 / フランス語 / スペイン語 / ドイツ語に対応。工場出荷時設定は英語になっています。



(//sound-solution.yamaha.com/var/site/storage/images/_aliases/size_large, 3-jpn-JP/42556_97_1.jpg)

ご相談・お問い合わせ

便利機能で使い方がひろがる

オーディオミキサー機能で、各種回線のミックス通話が可能です。

それぞれのインターフェース（USB/Bluetooth/オーディオ入出力）に接続した複数の入力音声をミキシングして、異なる回線間での通話を可能にするオーディオミキサー機能を搭載。USBでWeb会議に接続しながら、スマートフォンともBluetoothで接続して、両方の音声をミキシングして通話することもできます。



外部マイク接続機能により、遠隔授業や遠隔セミナーでさらに使いやすく。

ハンドマイクとの接続が可能になる、外部マイク接続機能を搭載。ハンドマイクの音声を、自拠点のYVC-1000本体スピーカーからも出力することが可能になります。講師の音声を遠隔拠点側に配信しながら自拠点にも拡声できるので、セミナー配信や遠隔授業などの用途にも最適です。



- * 外部マイク機能の利用にはPCによる設定（設定アプリケーション「YVC-1000 Configurator」）が必要です。
- > 外部マイク機能対応のファームウェアおよびYVC-1000 Configuratorはこちら (/products/uc/yvc-1000/download#tab)
- 📄 YVC-1000/YVC-1000MS 外部マイク接続手順はこちら (/download/manual_dwg/YVC-1000_Microphone_ja.pdf)
- 📄 YVC-1000利用ガイド - 外部接続マイク&スピーカー活用の心得 (/download/catalog/uc_online_seminar_leaflet_201222.pdf)

接続可能外部マイク

※YVC-1000の音声端子はRCA（メス）です。ファンタム電源供給機能はありません。
※専用の拡張マイク（YVC-MIC1000EX）以外のバウンダリマイクはハウリングが発生するため、ご利用いただくことができません。
※付属/拡張用のYVC-1000専用マイクは、自拠点のスピーカーから拡声できません。遠隔地へ音声を配信する用途に利用可能です。

有線ハンドマイク

- 有線ハンドマイクを直接YVC-1000に接続可能です。
- マイク感度が「-54.0±6.0 dBV / Pa」の仕様を満たすものをお使いください。

無線マイクシステム

- マイクレベル/ラインレベルどちらの出力レベルの無線マイクシステムでもYVC-1000に接続可能です。

動作確認済マイク

	動作確認済	必要なオーディオケーブル
有線ハンドマイク	ヤマハ：DM-105/DM-305	「RCA ピンプラグ⇔XLR（Female）」のオーディオケーブル 例：オーディオテクニカ ATL417A/3.0、カナレ電気 RC05-X1
	オーディオテクニカ：PRO41	
	Shure：SM58	

ご相談・お問い合わせ
(/cont)

	動作確認済	必要なオーディオケーブル
無線マイクシステム	Line 6 : XD-V75/XD-V55/XD-V35	レシーバーの接続端子に合わせてご準備ください。 - アンバランス 1/4 インチ・オーディオ・アウトプット・コネクタの場合「RCA ピンプラグ⇔PHONE プラグ（モノラル）」のオーディオケーブル 例：カナレ電気 QC018 - バランス XLR オーディオ・アウトプットの場合「RCA ピンプラグ⇔XLR（Female）」のオーディオケーブル 例：オーディオテクニカ ATL417A/3.0、カナレ電気 RC05-X1
	Revolabs HD Dual *生産完了	「RCA ピンプラグ⇔ミニプラグ（モノラル）」のオーディオケーブル 例：ソニー RK-G50

臨場感あふれる高音質

独自の高音質技術を多数搭載。快適な遠隔コミュニケーションを実現します。

YVC-1000には高性能の適応型エコーキャンセラーをはじめ、ヤマハが長年培ってきた高音質技術を数多く搭載。マイクで収音した音から人間の声を高い精度で判定する技術「Human Voice Activity Detection（HVAD）」をさまざまな音声処理に組み込むことにより、音声とノイズをしっかりと仕分けして、「話しやすく」「聞きやすく」「疲れない」音声コミュニケーションを実現します。



自動で最適な音質に - ヤマハの音声処理技術

・ストレスなく双方向会話できる「適応型エコーキャンセラー」

スピーカーから再生された通話先の音をマイクが拾ってしまうことにより発生するエコーを除去。残響の長い部屋でもしっかりと作用し、20kHz までの音声を処理できるので、より聞きやすく話しやすいスムーズな双方向会話を実現します。

・発話者を自動で追尾する「マイク自動追尾」

話者位置検出機能により声の方向を自動で追尾して、発話者にフォーカスしたクリアな収音を可能にします。物音には反応せず人の声のみをとらえて収音するので、ノイズがある部屋や多人数で会議をする際に威力を発揮します。

・マイクに近い人と遠い人の声量を調整する「オートゲインコントロール」

マイクで収音した大きな音も小さな音も、最適な大きさに調整し、マイクからの距離や声量の違いによって生じる通話先での音量差を低減。ノイズがある環境では、人の声だけを増幅することで、快適なコミュニケーションをサポートします。

・ノイズを消して声だけを伝える「ノイズリダクション」

プロジェクターやエアコンなどから定常的なノイズが発生する環境でも、マイクで収音した音声からノイズ成分を除去。通話先には発話者の声をクリアに伝えます。

・声が響きやすい空間でもクリアに伝える「残響抑圧」

残響が多い空間で遠隔会議を行うと声が響くため、通話先で再生される音声聞き取りにくくなります。YVC-1000 は、部屋の特性に起因する残響成分を抑圧処理することにより、通話先にクリアな音声を届けます。

・スピーカー再生音を聞き取りやすく調整する「オートルームEQ」

部屋の音響特性に応じて、スピーカーからの再生音を最適な音質に調整。通話中の音声信号を利用してリアルタイムかつ自動で調整するため、部屋が変わっても変わらずおいしい音質調整をする必要がなく、残響を抑えた聞き取りやすい音声を再生します。

快適な遠隔コミュニケーションをするための5つのコツ

ご相談・お問い合わせ (/cont)

快適な遠隔コミュニケーションをするための5つのコツ



YVC-1000 使い方

YVC-1000 基本...



【基本的な使い方】

YVC-1000 マイ...



【マイク連結機能】

YVC-1000 外部...



【外部スピーカー接続機能】

YVC-1000 外部...



【外部マイク接続機能】

YVC-1000 音声...



【音声ガイドンス】

YVC-1000 自動...



【自動音響調整機能】

YVC-1000 Bluet...



【Bluetooth® 接続方法】

オプション製品



YVC-1000/YVC-1000MS 用拡張マイク
YVC-
MIC1000EX
(/products/options/yvc-mic1000ex)

ご相談・お問い合わせ
(/cont

音声コミュニケーション機器
(/products/uc)
調音パネル®
(/products/acoustic_treatment)
防音 (/products/soundproof)

- 定型タイプ防音室（不燃仕様）
(/products/soundproof/fireproof_std)

- 自由設計防音室（不燃仕様）
(/products/soundproof/fireproof_non-std)

- 防音ドア
(/products/soundproof/doors)

スピーチプライバシーシステム
(/products/speechprivacy)

ソリューション (/solution)

ハイブリッド型ワークスタイル
(/solution/hybrid_workstyle)
テレワークソリューション
(/solution/telework_01)
Withコロナ時代の会議室のありかた
(/solution/conference_3c)
ヤマハウェビナー動画一覧
(/solution/movie_webinar)
文教 (/solution/education)
オフィス (/solution/office)
医療 (/solution/medical)

ヤマハのバリュー (/value)

導入事例 (/case_study)

このサイトについて (https://www.yamaha.com/ja/terms_of_use/)

個人情報保護方針 (https://www.yamaha.com/ja/privacy_policy/)

無料貸出/体験 (/experience)

ダウンロード (/download)

サポート (/support)

音声コミュニケーション (/support/uc)
調音パネル®
(/support/acoustic_treatment)
防音 (/support/soundproof)
スピーチプライバシーシステム
(/support/speechprivacy)

新着情報 (/news)

関連サイト

SMART EDUCATION SYSTEM
(http://ses.yamaha.com/)
Facebook Yamaha サウンドソリューション
(https://www.facebook.com/YamahaSoundSolution)
ヤマハの楽器音響機器
(http://jp.yamaha.com/)
ヤマハ研究開発
(http://research.yamaha.com/)
法人様向け リース・レンタル
(https://rental.jp.yamaha.com/shop/business/index.aspx)

企業情報
(https://www.yamaha.com/ja/about/)

音声コミュニケーション機器

海外取扱い地域
(https://www.yamaha.com/products/en/communication/)

ヤマハのB2B

ネットワーク機器
(https://network.yamaha.com/)
プロオーディオ
(https://jp.yamaha.com/products/proaudio/index.html)
半導体
(http://device.yamaha.com/ja/lsi/)
自動車用内装品
(http://www.yamahafinotech.co.jp/products/car_parts/)